

障がい児部会 報告書

会議名	第1回 障がい児部会		
開催日時	令和7年9月19日（金）9時30分～11時30分		
開催場所	板橋区立グリーンホール 1階ホール		
出席者数	13名（欠席1名）	傍聴者数	0名

報告事項（2件）

議題名	第10期障がい児部会の活動計画
概要	第10期障がい児部会の主な協議事項、スケジュールなどを共有した。

議題名	板橋区障がい者計画2030の障がい児部会に関する事業の進捗
概要	板橋区障がい者計画2030に掲げる「家族への支援体制の構築」において、障がい児部会に関する事業の取組状況を、各担当課から報告した。（7事業）

協議事項（1件）

議題名	発達に気がかりがある子どもの家族支援について
概要	発達に気がかりがある子どもの家族による情報収集の負担軽減を目指し、家族が必要とする情報をグループワークにて整理する。テーマは事前アンケートをもとに設定した。
主な意見	1 グループ ■テーマ「子どもの発達に気がかりな時の相談について」 （1）相談機関やその利用方法について ・ワンストップでつながるとよい。 ・窓口へ行くたびに同じ話をするのを軽減するために、サポートファイルも活用していくことが必要ではないか。 ・発達障がいの日常生活でよくある特有の困りごと（例えば片付けの方法など）について相談できる体制があればよい。 （2）相談機関を知らせる媒体について ・子どもの発達に気がかりがある人もそうでない人も、相談先について気軽にみられる媒体があるとよい。 ・情報をたくさん詰め込んだ媒体は、手に取ってもらえないのではないか。 ・幼児期などステージごとの資料にするとよい。 ・相談先をまとめた媒体は、普及版、詳細版、アプリや紙媒体など利用者の世代も考慮してはどうか。 ・相談意向の有無を問わず、相談事業や窓口を知ってもらう工夫が必要ではないか。 （3）地域の相談体制の向上について ・療育（児童発達支援）の場では共に過ごしている子どもたちであるが、児発と幼稚園・保育園間の情報共有がほとんど見られない。このことが、子どもや保護者、支援者に不利益をもたらす恐れがある。インクルーシブ保育や教育が言われている中で、保育園や幼稚園と療育がどのように連携しているかわかりやすく伝わるようになることも大切。

- ・支援者側として、困っている家族や気がかりがある子どもを次にどうつなげればよいかわからないこともある(→例として、健康福祉センターに)。
- ・相談支援事業所では、計画相談支援につながらない人でも、困りごとの相談をすることもある。事業所側の人手不足の課題。

2 グループ

■テーマ「きょうだい児支援」

(1) 親の困りごと

- ・障がいのある子どもときょうだい児への対応の仕方がわからない(例：障がいのある子どもがきょうだい児に暴力をふるってしまった時やきょうだい児の所有物を壊してしまった時)。
- ・きょうだい児に向き合う時間の余裕がない。
- ・きょうだい児の就学先について、障がいのある子どもときょうだい児は同じ方が良いのか違う方が良いのかなど、ライフステージによっていろいろな困りごとがある。
- ・きょうだい児との時間を作るために福祉サービスを利用したいと思うが、そのような理由で預けられるのかわからない、預ける際にも罪悪感が生じる。
- ・親自身の入院や出産時だけでなく、きょうだい児の受験や学校行事など、きょうだい児のために福祉サービスを利用しやすくしてほしい。
- ・これらの困りごとに関する情報、相談先が明確になればよい。

(2) きょうだい児の困りごと

- ・障がいのある兄弟姉妹に対する接し方がわからない。
- ・障がいのある兄弟姉妹に対する周囲からの差別的な視線に傷つく、恥ずかしさを感じる。
- ・宿題のプリントによだれをかけられた、自分が作った作品を壊された、暴力を受けるなどの被害を受けた際の対処法がわからない、気持ちのやり場がない。
- ・社会経験が不足しやすい(例：外出や外食、公共交通機関の利用)。
- ・親がきょうだい児の気持ちを受け止める余裕、時間がない。

(3) きょうだい児への支援について

- ・障がいに理解ある環境づくり。
- ・きょうだい児を個として認めて関わってくれる大人の存在(例：児童発達支援事業や放課後等デイサービスの職員、特別支援学校の教員、地域住民)。
- ・きょうだい児が親を独り占めできる機会。
- ・きょうだい児自身が主役になって楽しめる機会、社会経験の不足を補う機会。
- ・親がきょうだい児が必要とする情報を把握し、きょうだい児と一緒に見られる媒体があるとよい。
- ・きょうだい児自身が必要とする情報にアクセスできるとよい。

今後の方向性

- ・第1回の意見を踏まえ、各項目について情報をまとめる。
- ・仕上りのイメージは子どもの発達支援ガイドブック家族版となる予定。
- ・第2回障がい児部会では、ガイドブック家族版についてさらに意見交換を進める。